

## 第二部 準備編

### 1 訓練の企画

訓練を実施する場合には、どういう目的で、誰を対象に、どのような災害を想定して訓練を行うのかを最初に決める必要があります。そして災害による被害がどのように復旧していくのか、また訓練参加部門がそれぞれの役割や機能を果たすためにどのような活動を展開していくのか、それぞれを時系列にまとめたシナリオづくりが必要となります。

訓練の企画は、次のようなステップで進めていくことが一般的ですのでこのステップに沿って解説していきます。

図 6: 訓練企画のステップ

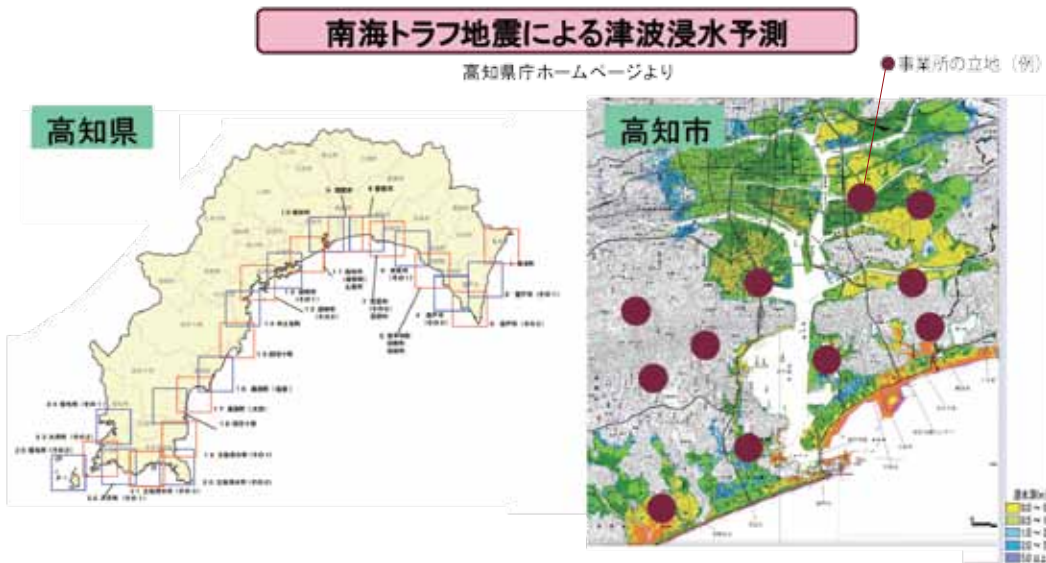
- 
- STEP 1. 目的の明確化**
  - STEP 2. 推進体制の確立**
  - STEP 3. 訓練基本事項の設定**
  - STEP 4. 被災状況の設定**
  - STEP 5. 災害時業務フローの設定**
  - STEP 6. シナリオの作成**
  - STEP 7. 回答例または解説の作成**

◆訓練シナリオを検討する際に考慮すべき事項

本書では、このあと訓練シナリオの作り方を説明していきますが、訓練シナリオを検討する際には、以下の点を常に考慮しておく必要があります。

1. 事業所の立地

高知県の場合、南海トラフ地震による津波の影響を抜きにしてBCPは語れません。本社・事業所・店舗など事業所の立地によって、津波の影響とその対応は異なりますので、訓練シナリオもそれぞれの事業所の立地に合わせて作成する必要があります。例えば、初動フェーズにおける「避難行動」は、津波浸水域に立地している場合と、そうでない場合では、訓練シナリオは別の内容になりますし、その事業所が1ヶ所か、複数かによっても違ってきます。



2. 事業の内容 (業種)

またBCPは、事業の内容すなわち業種によって大きな違いがあります。本書では、県内事業者の多数を占める「製造業」「卸小売業」「旅館ホテル業」「建設業」「医療」「福祉」を対象としていますが、訓練シナリオは来訪者の避難誘導やサプライチェーン対応など、事業の内容にあわせた内容とすることが必要です。

本書では、以上の2点を踏まえ、高知県内の事業者の多様性に対応した訓練シナリオの作成方法について説明していきます。なお、訓練シナリオで考慮すべきポイントは概ね以下のとおりです。

訓練シナリオ		立地による津波被害					業種					
フェーズ	想定される行動	単独事業所		複数事業所			製造業	卸小売業	旅館ホテル業	建設業	医療	福祉
		有	無	全部有	一部有	全部無						
初動	津波避難行動	必要	-	必要	必要	-	立地に依存					
	対策本部場所	代替	本社	代替	代替	本社	立地に依存					
	その他個別	代替	本社	代替	代替	本社	立地に依存					
事業継続	お客様避難誘導	—					△	◎	◎	△	◎	◎
	サプライチェーン対応	—					◎	◎	△	○	△	△
	その他個別	—					○	○	○	○	○	○

「代替」：本社が被災する場合の自社機能を代替する拠点

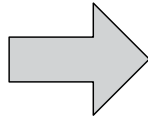
「◎」：シナリオに特に重要な必須項目、「○」：シナリオに必須、「△」：場合により入れる

# STEP1. 目的の明確化

訓練を実施する際には、想定するリスクや災害対応のフェーズ、対象者と検証項目等の観点に対してどのような訓練を行いたいのか、経営層ともよく相談のうえ、目的を明確にしておく必要があります。

## 1. 想定するリスク

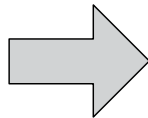
- (1)地震・津波
- (2)水害
- (3)新型インフルエンザ
- (4)原子力発電所事故
- (5)火山噴火



本書では、(1)の中の「南海トラフ地震」を想定した訓練を対象とします。

## 2. 災害対応のフェーズ

- (1)初動フェーズのみ
- (2)初動+事業継続フェーズ
- (3)事業継続フェーズのみ



本書では、事業者のBCMの成熟度に応じて、(1)~(3)いずれにも対応できるよう説明していきます。

## 3. 対象者と検証項目

- (1)対象者
  - ①災害対策本部メンバー
  - ②一般従業員
- (2)検証項目
  - ①災害時に発生する事項（疑似体験）
  - ②BCPの理解度向上
  - ③BCPの検証
  - ④事業継続に関する課題への対応の検討

### Point! ▶▶▶ 訓練の目的と実施パターン

誰を対象にどのような検証を行いたいのか、訓練の目的によって実施パターンが大きく異なります。本書では、初動の訓練と中級の訓練を次のとおりとしています。

	初級の訓練	中級の訓練
対象者	一般従業員（現場） 災害対策本部メンバー	災害対策本部メンバー 重要業務の事業継続対応メンバー
目的	疑似体験 策定済BCPの理解度向上	策定済BCPの検証 課題への対応の検討
フェーズ	初動	初動+事業継続

## STEP2. 推進体制の確立

目的を明確にした後、訓練の概要やシナリオの作成を始めますが、訓練の内容によって総務・人事部門の担当者のみでは、リアリティのある訓練シナリオの作成ができない場合もあります。その場合は、関係する部門のメンバーも含めた推進体制を確立することが必要となります。

### 初級

初動フェーズのみの訓練は、災害時も総務・人事部門が中心となって活動をしますので、シナリオ作りも、総務・人事部門を中心とする推進体制があれば、それ以上の体制を新たに構築する必要はありません。

### 中級

事業継続フェーズまでの訓練は、重要業務の業務プロセスや、顧客や取引先などからの要求事項などもシナリオに盛り込む必要がありますので、総務・人事部門を中心とする体制だけでは、リアリティのある訓練シナリオを作成することは困難です。

そのため、関係する事業部門もメンバーに含めた「訓練準備委員会」を組織して、シナリオ作りを進めていくことが必要となります。

#### ◆訓練準備委員会の設置と活動の進め方

##### (1)設置（メンバーの任命）

災害対策本部事務局組織（総務・人事等）および訓練参加予定の各部門から実務に精通したメンバーを各1、2名任命し、訓練準備委員会を設置します。

##### (2)メンバーの役割

訓練準備委員会メンバーは、事業継続に係る災害時の業務フローに関する情報提供を行い訓練のシナリオ（被災想定、状況付与）づくりに協力します。

なお、訓練準備委員会メンバーは、当日はできるだけ訓練に参加せず、観察者役として参加します。

##### (3)活動の進め方（例）

###### 第1回目会議

- ①訓練の目的の確認
- ②訓練基本事項の検討
- ③災害時業務フローの確認とシナリオイメージの検討

###### 第2回目会議

- ①シナリオ案の提示と検討
  - ・状況付与案、課題設問案の検討

###### 第3回目会議

- ①シナリオ案の最終確認
- ②訓練準備資料の確認
- ③訓練当日の進め方の確認

## STEP3. 訓練基本事項の設定

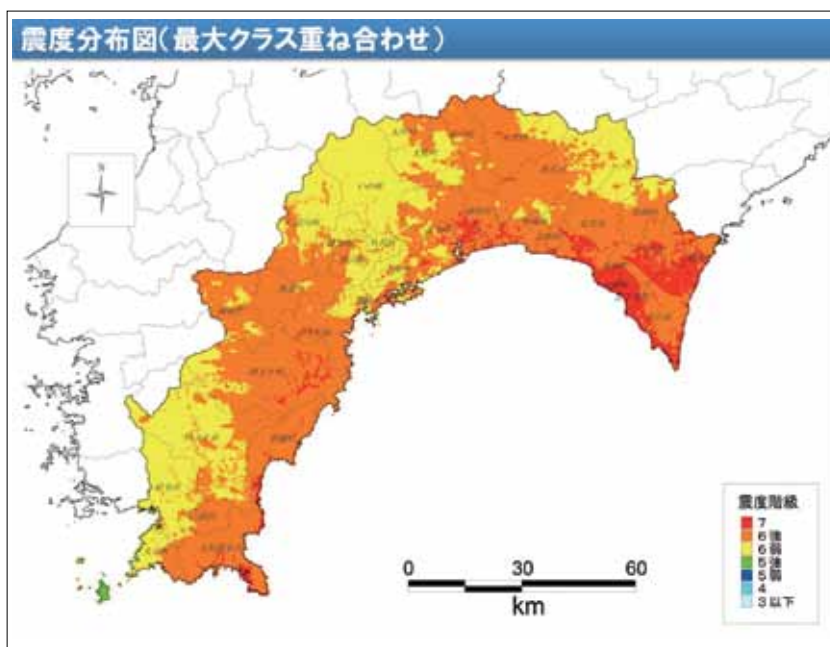
訓練の目的、推進体制が決まったら、「想定する災害」、「訓練対象部門」、「訓練の日時」、「場所」、「実施方法（タイムテーブル）」、「会場レイアウト」などの訓練基本事項を設定します。

### 1. 想定する災害・発生時間等

発生時間や設定する災害により、シナリオが大きく異なることから、訓練目的に応じて、設定する災害や発生時間などを設定します。

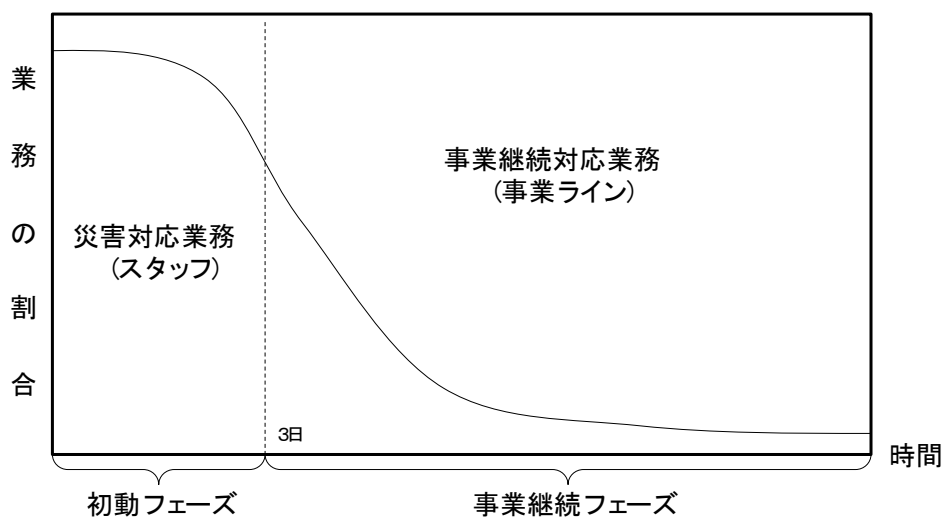
発生時間については、平日・休日、昼間・夜間などの条件を、訓練対象の時間については、「初日～3日目」「3日目～1週間」などの条件を定めます。

設定例：南海トラフ地震、発生時刻：平日、午前10:15



出典：南海トラフ地震による震度分布・津波浸水予測

設定例：「初日～1週間」「初動+事業継続訓練」



## 2. 訓練対象部門

訓練に参加する対象部門の決定は、想定する災害の設定と同じくらい訓練シナリオづくりに大きく影響します。これを曖昧にしておくと、シナリオづくりの際にいろいろな不都合が生じるので注意が必要です。

訓練対象部門は、STEP1.目的の明確化で決めた災害対応のフェーズが、「初動」のみか「事業継続」も行うかによって、大きく2つに分かれます。それぞれのフェーズにおける訓練対象部門を以下で説明します。

### 初級

#### 【初動のみの訓練の場合】

一般的には、災害対策本部を構成するスタッフ部門が対象となります。

スタッフ部門とは、総務・人事、施設・設備、システム、広報、財務部門など通常業務で事業活動のサポートを担う部門です。

また、初動のみの訓練では、新規採用職員や全職員を対象として初動の対応要領を理解させることを目的とした訓練も考えられます。

### 中級

#### 【初動+事業継続の訓練の場合】

重要業務を担当する事業ラインの各部門が対象となります。

事業ラインの各部門とは、業種によって異なりますが、本書では、標準的な部門として、次の部門名をあげています。

- 製造業（営業、生産管理、調達、製造、物流）
- 卸小売（商品調達、物流、店舗統括、各店舗）
- 旅館ホテル業（営業、宿泊、料飲、宴会、購買）
- 建設業（営業、設計技術・積算、調達、工事）
- 医療（診療、看護、コメディカル、入院、医事、調達）
- 福祉（医務、介護、訪問・通所、相談、給食、調達）

対象部門が決まったら、訓練参加者とグループ編成を決めます。

訓練参加者は、初動フェーズの訓練の場合は、災害対策本部メンバーで行うことが多いため、ほぼ自動的に決まりますが、事業継続フェーズの訓練の場合は、目的によって部門別、役職階層別などいろいろなパターンが考えられます。

また、グループ討議を行うためのグループ編成についても、目的や訓練フェーズによっていろいろなパターンが考えられるため、状況付与・課題設定のことも十分考慮して、決定する必要がありますので次の考え方を参考にしてください。

中級(続き)

(1)対象者の選出・出席依頼

対象部門から訓練参加者を選出し、出席依頼を通知します。通知の際には、「訓練実施要領(詳細は後述)」を配布します。

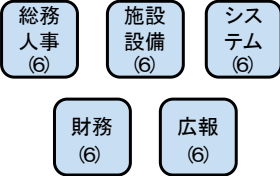
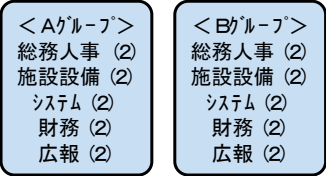
(2)グループ編成

部門毎の人数を勘案し、訓練目的に合わせてグループ編成を行います。活発な討議が行われるためには、1グループあたり5～6人程度が適切といわれています。

グループ編成は、シナリオや課題設問の設定にも影響がありますので、以下の点に留意してください。

① 機能別のグループ編成と、横断的混成グループ

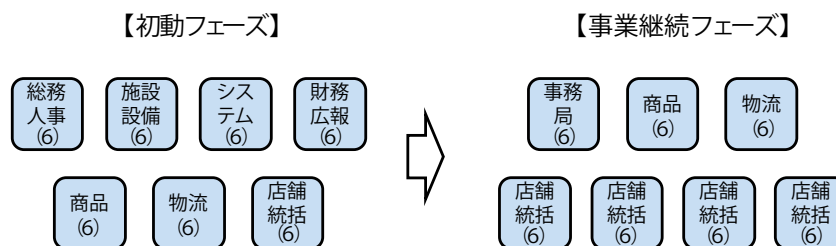
災害対策本部は、機能別のグループを設置することが一般的であるので、機能別のグループ編成で訓練を行うことが多いですが、災害対策本部全体としての対応方法を検討したい場合などには、横断的混成グループとすることもあります。

	機能別のグループ	横断的混成グループ
グループ編成		
メリット	機能別に、BCP内容の理解度向上や確認を行う場合に討議しやすい	他部門との情報交換・共有が可能 全体としての対応方法の検討に向く
デメリット	他部門との情報交換ができない	機能別の対応が検討できない

② 初動フェーズと事業継続フェーズで組み換えを行う例

初動フェーズはスタッフ部門が、事業継続フェーズは事業ライン部門が中心の訓練となりますので、とおして訓練を行う場合は参加者の手待ちを作らないための工夫が必要です。

【初動フェーズと事業継続フェーズで組み換えを行う例】



スタッフは、事業継続フェーズでは、災害対策本部事務局以外はすべて店舗の応援に行くという想定で、グループを組み換え

### 3. 訓練の日時

訓練の実施日は、初級の場合で約1ヶ月、中級の場合は2ヶ月程度の準備期間を見ておきましょう。

### 4. 訓練の実施場所

通常、実際に災害対策本部を設置することになる場所とします。

### 5. 訓練の実施方法（タイムテーブル作成）

机上型BCP訓練における初級、中級それぞれのタイムテーブルの例を示します。

#### 初級

状況付与の都度、質問を与えるパターン

時間		訓練進行	訓練参加者の活動
14:00 -	5分	事務局長挨拶	
14:05 -	15分	事前説明（目的や訓練の進め方等）	
【シナリオ】状況付与及び質問数は一例。必要に応じて調整してください。			
14:20 -	8分	状況付与+質問①	グループ討議
14:28 -	8分	状況付与+質問②	グループ討議
…… 適宜休憩を挟みます			
15:24 -	8分	状況付与+質問⑨	グループ討議
15:32 -	8分	状況付与+質問⑩	グループ討議
15:40 -	30分	グループ毎の発表	
16:10 -	15分	講評・まとめ	
16:25 -	5分	総評（災害対策本部長）	
16:30 -		終了（訓練実施後アンケート記入）	

#### 中級

複数の状況付与の後、質問を与えるパターン

時間		訓練進行	訓練参加者の活動
14:00 -	5分	事務局長挨拶	
14:05 -	10分	事前説明（目的や訓練の進め方等）	
【シナリオⅠ】			
14:15 -	15分	①状況付与	
14:30 -	30分	②課題設問提示・グループ討議	①をグループ討議
15:00 -	25分	③発表（+小コメント）	3分×8グループ
15:25 -	10分	<休憩>	
【シナリオⅡ】			
15:35 -	15分	①状況付与	
15:50 -	30分	②課題設問提示・グループ討議	②をグループ検討
16:20 -	25分	③発表（+小コメント）	3分×8グループ
16:45 -	10分	講評・まとめ	
16:55 -	5分	総評（災害対策本部長）	
17:00 -		終了（訓練実施後アンケート記入）	



## STEP4. 被災状況の設定（様式1）

訓練基本事項の設定が終わると、いよいよシナリオ作りに入っていきます。

まずは、訓練に関係する本社や事業所の被災・復旧状況をだまかに設定します。

これは添付資料の「様式1 被災状況の設定」を使います。記入に当たっては、「【高知県版】南海トラフ地震による被害想定（2013年5月15日）」や付属CDの「（参考資料）南海トラフ地震被災想定集」を参考にしてください。（次ページにも一部掲載）

### 1. 本社および事業所の記入

訓練の目的に合わせて、シナリオに関係する本社及び事業所（工場、営業所、店舗、物流センターなど）を、所在地の住所もあわせて記入します。

### 2. 被災・復旧状況の想定

次に本社及び事業所毎に震度、津波の浸水被害や、自社施設及びインフラの被災・復旧状況を時系列に想定します。

必ずしもすべての項目を埋める必要はありませんが、訓練シナリオに関係する部分については、ある程度の想定をしておきます。

### Point! ▶▶▶ 事業所の立地による被災想定の違いと、復旧状況の時系列の違いを明確にする。

記入例では、〇〇本社と拠点Aが津波により浸水し、拠点Aは1日で水が引いたが、〇〇本社は10日経っても水が引かない例を表しています。

【様式1】 被災状況の設定（記入例）

項目	経過日数	〇〇本社	拠点A	拠点B	
		高知市 〇〇町	〇〇市	〇〇市	
震度	-	震度6強	震度6弱	震度5強	
津波被害 (浸水)	1日目	浸水	浸水	-	
	3日目	浸水	-	-	
	7日目	浸水	-	-	
	10日目	浸水	-	-	
電気	1日目	停電	停電	-	
	3日目	停電	停電解消	-	
	7日目	停電	-	-	
水道 (上水道) (下水道)	1日目	断水 使用不可	断水 使用不可	-	
	3日目	断水 使用不可	断水 使用不可	-	
	7日目	断水 使用不可	解消	-	

## 〔参考〕被災状況の状況付与の表現例

初級

中級

南海トラフ地震を想定した訓練における、各種被災状況は、付属CDの「(参考資料) 南海トラフ地震被災想定集」に詳しく掲載しています。

ここでは、その一部を紹介しますので、訓練シナリオづくりのイメージを確認してください。

項目	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
	発信源	状況付与
1 災害発生	ワセグ TV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「●月●日(●)●時●分、高知県沖を震源とするM9.0の南海トラフ地震が発生した。各地の震度は次のとおり。</li> <li>震度7：高知県高知市、室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、北川村、徳島県阿南市、和歌山県美浜町</li> <li>震度6強：高知県、徳島県、和歌山県、三重県、愛知県、静岡県沿岸部、宮崎県沿岸部の一部、愛媛県</li> <li>震度6弱：宮崎県東部、愛媛県南予、高知県、徳島県、和歌山県、三重県の内陸部、奈良県南部、静岡県東部</li> <li>津波：宮崎県、愛媛県南予、高知県、徳島県、和歌山県、三重県、愛知県、静岡県沿岸部で、5メートルを超える津波が発生。」</li> <li>・「建物倒壊に伴い、死傷者及び救助を要する人が多数発生」</li> <li>・「津波浸水に伴い、死傷者及び救助を要する人が多数発生」</li> <li>・「延焼火災を含む大規模な火災に伴い、死傷者及び救助を要する人が多数発生」</li> <li>・「液状化により、建物の沈下被害が多数発生」</li> </ul>
2 建物被災状況	社内主幹 部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「当社●事業所の揺れは、震度●。」</li> <li>・「当社●事業所の天井が落下した。壁、パーティションが崩壊した。」</li> <li>・「地震動により、クリーンルームが使用不能となった(製造業)。」</li> <li>・「執務室に設置された●●及びキャビネットが転倒し、机上のPC・オフィス用品が落下した。」</li> <li>・「地震動により、据付け機械の位置ズレが発生した。」</li> <li>・「燃料タンク・水タンクが転倒し、落下した。」</li> </ul>
3 電気	TV報道等	<p>[直後] 広範囲の停電(需要家の9割)。震度6弱以上及び津波浸水エリアでは、電柱(電線)、変電所、送電線(鉄塔)に被害が発生。</p> <p>[3日後] 停電の多くが解消される。四国で2～5割の停電は解消。</p> <p>[1週間後] 約9割の停電が解消(津波浸水地域は除く)</p>
4 通信		<p>[直後]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「当社●事業所の固定電話は通話不能」</li> <li>・「携帯電話は通話不能。」</li> <li>・「携帯メールの着信までに時間を要する。」</li> <li>・「当社●事業所において、インターネットが使用できない。」</li> </ul> <p>[3日後]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「固定・携帯電話とも、音声通話につながりやすくなる。」</li> </ul>

# STEP5. 災害時業務フローの設定 (様式2)

次に訓練対象部門の災害時対応業務の全体像を見渡すための災害時業務フローを作成します。

これは添付資料の「様式2 災害時業務フロー」(PPT)を使います。記入にあたっては、業種別の標準的な災害時業務フローを参考資料として用意していますので、これをもとに各社のBCPにあわせて作成してください。

## 1. 組織名(部門名)の記入

訓練対象部門を表の上段に記入します。

下記の記入例では、スタッフ各部門と事業部門を記入しています。広報と財務は別の部門ですが、業務がシンプルなので、業務フロー上は一つの枠に一緒に書くこととしています。

様式2 災害時業務フロー

発生後の経過時間	顧客	災害対策本部								仕入先
		総務人事	施設・設備	システム	広報・財務	事業部門A	事業部門B	事業部門C	事業部門D	

## 2. 災害時業務フローの記入

各社のBCPにあわせて、各組織(部門)の業務の流れを記入します。なお、災害時業務フローの標準例は、BCPをこれから策定する場合や見直したい場合にも、活用することができます。

災害時業務フローの標準例は、次の6業種を用意しています。

- ・製造業、卸小売業、旅館・ホテル業、建設業、医療、福祉

様式2 災害時業務フロー

発生後の経過時間	顧客	災害対策本部								仕入先
		総務人事	施設・設備	システム	広報・財務	事業部門A	事業部門B	事業部門C	事業部門D	
初動 ●時間		避難行動/安全確保								
		安否確認	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	システム被災状況確認	.....	.....	.....	.....	.....	
		第1回 災害対策本部会議								
事業継続 ●時間		.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
		.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	

第一部 基礎編

第二部 準備編

第三部 実施編

第四部 振り返り編

資料編

## [災害時業務フローのパターン]

リアリティーのある訓練シナリオを作成するためには、災害時業務フローにより訓練対象部門が、時系列でどういう業務を行うかを整理しておく必要があります。

初動フェーズと事業継続フェーズにおける災害時業務フロー設定の留意点は、以下のとおりです。

### (1) 初動フェーズ

初級

中級

初動フェーズにおける災害時業務は、本社や事業所の立地が、津波浸水地域にあるかどうかによって大きく違ってきます。

	災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
		発信源	状況付与
1	災害発生	ワケがTV	高知県沖を震源とする地震が発生しました。この地震により、津波が発生する可能性があります。 各地の震度は、高知県震度〇、和歌山県震度〇…。
2	安全確保	館内放送	大きな地震が発生しました。各自、建物内の安全な場所で待機してください。
	【津波危険地域】 津波避難行動	ワケがTV	津波が発生する可能性があります。至急、指定された津波避難場所へ避難してください。
3	災害対策本部設置		第一候補場所に社長以下、対策本部メンバーが参集し、対策本部が設置された。
	【津波危険地域】 災害対策本部設置		代替場所〇〇に、社長以下、対策本部メンバーが参集し、対策本部が設置した。通信手段は、衛星携帯電話が一台あるのみ。非常用発電機はあるが、燃料は24時間分しかない。
4	安否確認		<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇社長の安否がまだ確認できていません。</li> <li>社員〇〇が構内で負傷、出血し重体です。</li> <li>〇時〇分の集計結果は、死亡〇人、負傷者〇人、不明者〇〇人、無事〇〇人。</li> <li>取引先A社から、A社社員が貴社訪問中だったが安否を確認してほしい。</li> <li>〇〇業務のキーマンX氏の奥様が被災し重体。</li> </ul>
5	各部門被災状況確認	施設G 施設GシステムG 調達部	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物は外壁にひび割れがあるものの、構内での作業に支障はない。</li> <li>A棟3階の天井板が落下し、製造装置が被災。</li> <li>地下室のサーバが津波で被災。シャットダウンしデータも消失した模様。復旧目途も立たない。</li> <li>主要部品メーカー X社は甚大な津波被害。復旧のめどは立っていない。</li> </ul>
6	第一回災害対策本部会議		明日9時から、第一回災害対策本部会議を開催することとなった。被災状況の報告と今後の対応方針について話し合われる。

### (2) 事業継続フェーズ

中級

事業継続フェーズにおける災害時業務は、業種により大きく異なります。次ページ以降、業務別に状況付与の表現例を示します。

災害時業務フロー図（製造）

中級

製造業の場合、サプライチェーンの一部であることが多く、川下のメーカーから災害時の製品供給の納期に関する要求を確認する必要があります。その上で、工場が被災した場合にその復旧による生産再開で納期を守れるか、代替生産に切り替える必要があるか会社としての方針決定プロセスを明記しておく必要があります。

発生後の経過時間	顧客	災害対策本部								仕入先	
		事務局 (総務・人事)	施設設備	システム	広報・財務	営業	生産管理	調達	製造		物流
初動		避難行動 / 安全確保									
		安否確認 災害対策本部の設置	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	情報通信・システム被災状況確認 バックアップ・代替手段への切り替え	資金ニーズの確認	顧客の被災状況・ニーズ確認 受注情報確認	設備の被災状況確認 社内外の製品・仕掛在庫状況の把握 代替生産の判断 ①社内の他工場 ②同業他社	仕入先の被災状況・在庫確認 社内外の材料関係の在庫確認	工場の被災状況確認 二次災害防止処置 操業再開の判断 ①部分操業 ②通常操業 ③通常操業 ④操業不可 当該工場復旧で顧客要求納期に対応可能なかの判断	物流拠点の被災状況確認 製品・部品の在庫確認 操業再開の判断 ①倉庫外で操業 ②倉庫内で部分操業 ③通常操業 ④操業不可	物流ルート の被災状況確認 (陸・海・空)
		第1回災害対策本部会議開催 被災状況の確認→優先すべき製品・納品先、生産方法（工場復旧もしくは代替生産）の決定									
●時間		広報対応および情報収集			広報	顧客への案内					
事業継続		操業再開に伴う従業員の応援（再配置）	建物の修理を建設会社に依頼	情報通信・システムの復旧活動（ソフトウェア）	現金が必要な場合、取引銀行に対する協力依頼	顧客のニーズ確認	通常時と異なる生産計画の立案（代替生産も含む）	資材・部品の調達（通常仕入先からの調達が困難な場合、代替仕入先の確保）	資材・部品・労働力等が制限される中での生産体制の構築	製品・資材・部品の配送（通常ルートでの配送が困難な場合、代替ルートの確保）	
		被災施設における防犯対策の実施	機械設備の修理・調達をメーカーに依頼		取引先への代金支払い				代替生産の場合他工場、他社への技術指導及び経営資源の投入	優先すべき製品の製造	
	●時間	給与の支払い 災害見舞金等の支払		バックアップ・代替手段からのシステム復旧 通常稼働へ	被害損害額の概算見積もり 保険金の請求	通常の営業活動へ	通常の生産計画へ	通常の仕入業務へ	通常操業へ	通常の物流業務へ	

災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
	発信源	状況付与
1 (初動)		STEP5. (1) 初動対応フェーズ参照
2 被災状況確認	製造装置メーカー	天井板落下による製造装置の破損の修理をメーカーに依頼したところ、メーカーからは、少なくとも2週間はかかると言われた。
3 顧客対応	重要顧客	製品xについては、30日以内に納品するようにとの指示があった。
4 顧客対応	重要顧客	30日以内に納品をするためのスケジュールと余命リストを提出するように求められた。
5 被災状況確認	現場	余震で、エアーが故障し、組立ラインが動かなくなった。
6 物流倉庫の被災状況確認	倉庫	地震で物流倉庫のマテハン装置が故障し、自動倉庫が機能しなくなった。
7 被災状況確認	システム部門	津波被災により、地下室のサーバが使用不能となった。
8 取引先の被災状況確認	調達部門	取引先B社から連絡があり、津波により工場が大破し、部品Pの出荷は当分見込みが立たない、とのこと。
9 代替生産の準備	T工場	代替生産を予定していたT工場は、無事との連絡が入った。
10 顧客対応	海外の重要顧客	海外の重要顧客から、製品の放射能汚染の心配はないか？ 汚染していないことを証明する検査結果を提出するよう求められた。

災害時業務フロー図（卸小売）

中級

特に高知県の卸小売業の場合、各店舗の立地が津波危険地域にあるかどうかが重要です。津波の危険度によって店舗をS,A,B,Cなどランク分けし、店舗再開の基準を作っておく必要があります。

発生後の経過時間	顧客	災害対策本部					営業（卸）店舗（小売）	仕入先
		事務局（総務・人事）	施設設備	システム	広報・財務	商品調達		
初動		避難行動／安全確保						
		安否確認 災害対策本部の設置 地域行政・近隣との連携	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	情報通信・システム被災状況確認	本社 店舗（小売）現金保有状況確認 取引銀行の被災状況確認	仕入先被災状況・在庫確認 優先すべき商品・納品先の判断	物流拠点の被災状況確認 操業再開の判断 ①倉庫外で操業 ②倉庫内で部分操業 ③通常操業 ④操業不可 物流ルートの被災状況確認（陸・海・空）	顧客の負傷状況確認 店舗の被災状況確認 店舗再開の判断 ①店外で臨時営業 ②店内で部分営業 ③通常営業 ④営業不可 商品在庫確認 取引先、消費者のニーズ確認
	●時間	第1回災害対策本部会議開催 被災状況の確認（店舗、倉庫、商品在庫・仕入、要員確保、物流ルート）⇒今後の対応方針の決定 店舗・営業所別、商品別						
事業継続		店舗の順次再開に伴う従業員の応援（再配置） 被災店舗・倉庫の防犯対策の実施 給与の支払い 災害見舞金等の支払い	店舗・倉庫等建物の修理を建設会社に依頼 機械・設備の修理・調達をメーカーに依頼 長期の復旧計画の検討	情報通信・システムの復旧活動（ソフトハード） 通常稼働へ	現金が必要な場合取引銀行に対する協力依頼 現金取り扱いのルール決定 取引先への代金支払い 被害損害額の概算見積り 保険金の請求	優先商品の調達（通常仕入先からの調達が困難な場合、代替仕入先の確保） 事前協定先との連携 販売管理システム復旧までは伝票による直接発注 通常の商品仕入業務へ	優先商品の配送（通常ルートでの配送が困難な場合、代替ルートの確保） 一部営業開始 津波浸水がなければ当日に店頭販売開始 建物復旧に応じ順次営業再開 浸水店舗は水が引かれた後●日以内に再開 通常の店舗営業へ	
	●時間							

	災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
		発信源	状況付与
1	（初動）		STEP5.（1）初動対応フェーズ参照
2	店舗被災状況確認	店舗A	店内の商品が落下し、また壁も天井も大きく破損しており、とてもお客様を店内に案内できる状況にはない。駐車場のスペースにワゴンを持ちだし、水・食料や生活用品などについて優先的に臨時販売を開始した。
3	店舗被災状況確認	店舗B	水や食料、特におにぎりやカップ麺を求めるお客様が多いがそれら商品の在庫が不足。至急届けてほしい。
4	商品調達	物流倉庫P	災害協定の相手方から水・食料等生活必需品が大量に届いたが、どこにどれだけ届けたらいいかが決まっていない。どうしたらいいか？
5	情報システムの被災状況確認	システム部門	情報システム室が津波被害を受けサーバがシャットダウンした。仕入先との共同システムも使用不能となった。
6	商品調達	商品部門	各店舗から水や食料など必要物資や商品の要求が届いている。合計すると相当な数になるが、どの店舗を優先したらいいか判断が難しい。
7	店舗再開準備	店舗C	一部津波被害にあったが、水が引き営業再開が可能な状況となった。駐車場での臨時販売を行いたいが必要が不足している。応援を派遣して欲しい。
8	防犯対策	店舗D	店舗のガラスが割れ、戸締りができない。レジの中の現金や商品がたくさん残っており心配だ。

第一部 基礎編

第一部 準備編

第二部 実施編

第四部 振り返り編

資料編

## 災害時業務フロー図（旅館ホテル）

中級

旅館ホテル業の場合、宿泊客の安全確保が第一優先事項となります。その上で個別の要望にどのように対応していくか、事前に決めておく必要があります。また、予約システムがダウンした場合のマニュアル処理についてもBCPの計画の中に入れておく必要があります。

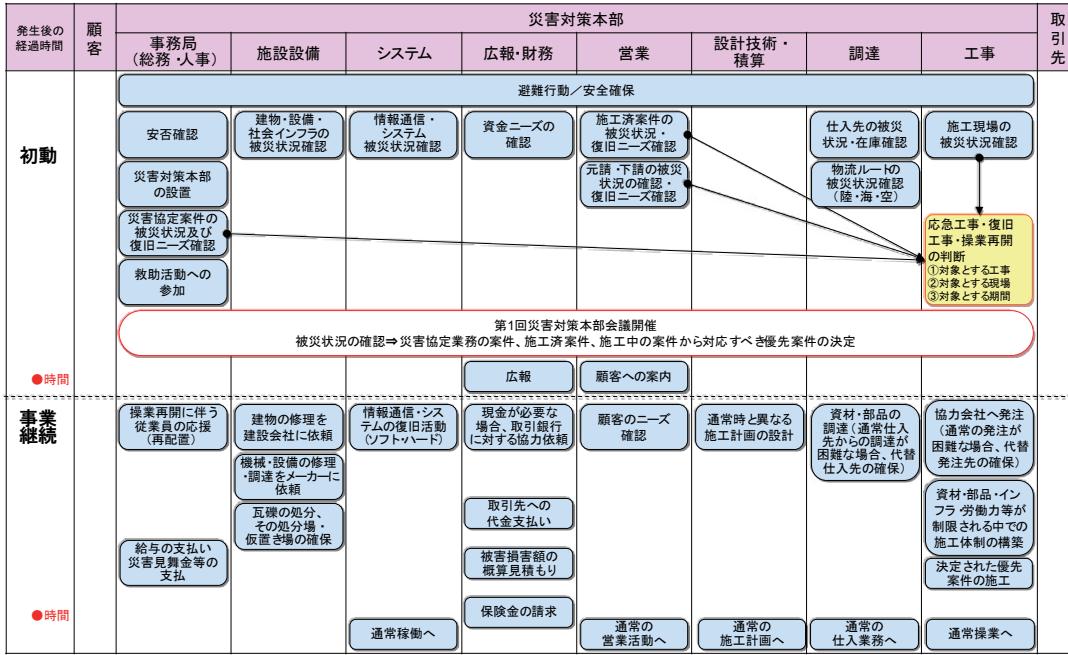
発生後の経過時間	顧客	災害対策本部									取引先
		事務局 (総務・人事)	施設設備	システム	広報 財務	営業	宿泊	料飲	宴会	購買	
初動		避難行動 / 安全確保									
		安否確認 災害対策本部の設置	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	情報通信・システム被災状況確認	資金ニーズの確認	客先・旅行代理店への被災状況に関する報告	宿泊客の負傷状況確認 宿泊客の意向確認	利用客の負傷状況確認	利用客の負傷状況確認	利用客の負傷状況確認	仕入先の被災状況・在庫確認
						営業再開の判断 ① 提供するサービス ② 提供する部屋 ③ 臨時営業の期間	営業再開の判断 ① 提供するサービス ② 提供する場所 ③ 臨時営業の期間	営業再開の判断 ① 提供するサービス ② 提供する部屋 ③ 臨時営業の期間			
		第1回災害対策本部会議開催 被災状況の確認→営業再開可否の決定									
●時間				広報	予約客・旅行代理店への営業方針に関する確立						
事業継続	●時間	操業再開に伴う従業員の応援(再配置)	建物の修理を建設会社に依頼	情報通信・システムの復旧活動(ソフトウェア)	現金が必要な場合、取引銀行に対する協力依頼	顧客・代理店のニーズ確認	(部分再開の場合)通常時と異なる業務の立案・実行	(部分再開の場合)通常時と異なる業務の立案・実行	(部分再開の場合)通常時と異なる業務の立案・実行	備品、消耗品、飲食材の購入(取引先が被災した場合、代替購入先を手配)	
		被災施設における防犯対策の実施	機械・設備の修理・調達をメーカーに依頼		決済方法が制限される場合の運用ルールの確定	予約システムが停止する等、通常時と異なる業務の立案・実行					
		行政との連携			取引先への代金支払い						
		給与の支払い 災害見舞金等の支払			保険金の請求	通常の営業活動へ	通常営業へ	通常営業へ	通常営業へ	通常の購入業務へ	

	災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
		発信源	状況付与
1	(初動)		STEP5. (1) 初動対応フェーズ参照
2	利用客の負傷状況確認	料飲	地震発生時にレストランで食事をされていたお客様が大ケガをされた。出血もひどい。どのように対処したらいいか。
3	宿泊客の負傷状況確認	宿泊	安否を確認したところ85人中3人が行方不明。エレベーターが停止中。閉じ込められている可能性がある。
4	営業再開の判断	宿泊	停電中だが、もう2、3日宿泊を延長したいというお客様も多い。対応要員も少ないし、使用できる部屋、リネンの状況も把握できていない。
5	飲食材の購入	購買	通常の飲食料の仕入れ先が津波で甚大な被害を受けた。代替の仕入れ先を探したい。
6	通常時と異なる業務の立案・実行	宴会	安否確認の結果、お客様全員の無事が確認された。夕方宴会の予定があるがどのようにすればいいか。
7	予約システムの停止	営業	津波被害によりシステムがダウンした。今日の予約客が確認できない。宿泊を希望する新たなお客様もいる。どのように対応したらいいか。
8	通常時と異なる業務の立案・実行	営業	行き場のないお客様から、当面、宿泊を継続したいと言われた。支払うお金もないという。どのように対応したらいいか。

災害時業務フロー図（建設）

中級

建設業は社会機能維持という重要な使命があります。災害時には道路や堤防の決壊などへの対応が求められるほか、半壊状態の建物の安全確認や施行済みの建物等の補修等、緊急対応を迫られることが多く、優先順位をつけて限られた資源を適切に配分しながら対応していく必要があります。



災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
	発信源	状況付与
1 (初動)		STEP5. (1) 初動対応フェーズ参照
2 施工済み案件の復旧ニーズ確認	市役所	主要幹線道路X号線が、沿岸部で陥没。至急状況を確認願う。
3 施工済み案件の復旧ニーズ確認	企業	事務所の壁にひび割れが入っている。従業員にこのまま勤務させていいか安全性の確認をして欲しい。
4 施工済み案件の復旧ニーズ確認	一般市民	自宅が半壊状態になって困っている。ここに住み続けていいか安全性の確認をして欲しい。
5 資材部品の調達	調達	工事部門から、工事用機械が5台中3台破損して使えない、これでは仕事が進まない、何とかして欲しい、という要請を受けた。
6 人員の調達	調達	(工事部門からの要請) 主要幹線道路の復旧工事を優先したいが、協力会社社員が集まらない。他の業務から回してもらえないか。
7 工事・操業再開の判断	工事	地震発生時、工事中の案件は20件程度あったが、人や工事用機材が十分確保できない。どの工事を優先したらいいか、会社として決めて欲しい。
8 瓦礫の処理	施設設備	瓦礫を搬出しないと工事が進まないが、業者も人手不足で、すぐには対応してくれそうにない。

第一部 基礎編

第二部 準備編

第三部 実施編

第四部 振り返り編

資料編



災害時業務フロー図（医療）

中級

医療機関によっては、「高知県災害時医療救護計画」で、災害拠点病院、救護病院などの位置づけがなされており、まずはその役割に応じたBCPが必要です。入院患者のバイタルサイン維持のための対応や、トリアージなど緊急医療への対応など業務は多岐にわたります。医療機器の耐震対策など事前の準備も欠かせません。早急にBCPを策定し、訓練などによる見直しを継続して進めていく必要があります。

発生後の経過時間	患者	災害対策本部										取引先
		事務局 (総務・人事)	施設・設備	システム	広報・財務	診療	看護	コメディカル	入院 (食事等)	医事	調達	
初動		避難行動／安全確保										
		安否確認	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	情報通信・システム被災状況確認		患者の安否確認 バイタルサインの安定化	患者の安否確認	医療設備・資材の被災状況確認	医療設備・資材の被災状況確認 患者家族との連絡	カルテ等書類の被災状況確認	仕入先の被災状況・在庫確認	
		災害対策本部の設置				対応可能な医療についての判断						
		外部との連携体制の整備										
●時間		第1回災害対策本部会議開催 被災状況の確認⇒対応方針の決定(拠点からの退避及び患者搬送の有無、対応可能な医療等)										
事業継続		外部連携先への案内		広報								
		外部からの応援受け入れ体制の構築	建物の修理を建設会社に依頼	情報通信・システムの復旧活動(ソフトウェア)	資金ニーズの確認	受け入れ体制の整備 緊急医療(トリアージ、治療)	受け入れ体制の整備 緊急医療	受け入れ体制の整備 緊急医療(検査、調剤)	受け入れ体制の整備(食料・ベッド)	受け入れ体制の整備(電子カルテ等が利用不可の場合、マニュアル処理への切替)	仕入先への発注(通常の発注が困難な場合、代替発注先の確保)	
		重傷者搬送の手配 勤務基盤の確保	機械・設備の修理・調達をメーカーに依頼		現金が必要な場合、取引銀行に対する協力依頼	症状安定化のための治療	症状安定化のための治療	症状安定化のための治療				
		給与の支払い 災害見舞金等の支払			取引先への代金支払い	遺体の確認と その対応	遺体の確認と その対応	遺体の確認と その対応				
●時間				被害損害額の概算見積もり	避難所等の巡回ニーズへの対応	避難所等の巡回ニーズへの対応	避難所等の巡回ニーズへの対応					
				保険金の請求	通常業務へ	通常業務へ	通常業務へ	通常業務へ	通常業務へ	通常業務へ		

	災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
		発信源	状況付与
1	(初動)		STEP5. (1) 初動対応フェーズ参照
2	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	施設	ガスメーター安全装置作動によりガス供給が停止。燃料が不足しており暖房・給湯・入浴を制限せざるを得ない。
3	受け入れ体制の整備	診療	トリアージの予定場所が津波により、使用不能状態となった。考えている余裕もないまま、救急車で人が次々に運ばれてきた。
4	受け入れ体制の整備	診療	人工呼吸器を使用している在宅患者が停電のため次々と来院してきた。受け入れも限界に達している。
5	緊急医療	診療	ガスの停止により、オートクレーブが動かせないので手術機材の滅菌ができなくなった。手術方法を指示願う。
6	患者家族との連絡	入院	受付に患者家族からの安否を尋ねる電話が殺到し、緊急医療に支障が出始めている。
7	入院患者の受け入れ体制の整備	入院/調達	通常の仕入れ先が被災し、食材が不足し食事の供給が困難となりつつある。代わりのルートを手配する必要がある。
8	入院患者の受け入れ体制の整備	入院	下水道が使用不可となり、トイレ環境は劣悪となった。手を洗う水もなく、感染症の蔓延が懸念される。

第一部 基礎編

第一部 準備編

第二部 実施編

第四部 振り返り編

資料編

災害時業務フロー図（福祉）

中級

福祉施設は、立地による危険度に応じた対応を考慮することがまず求められます。その上で、入所（居）者や在宅利用者の安否確認と安全の確保が最優先されます。その後の心のケアにも注意する必要があります。

発生後の経過時間	利用者	災害対策本部									取引先
		事務局 (総務・人事)	施設・設備	システム	広報・相談	医務	介護	訪問・通所	給食	調達・財務	
初動	●時間	避難行動／安全確保									
		安否確認 災害対策本部の設置 提供可能なサービスについての判断	建物・設備・社会インフラの被災状況確認	情報通信・システム被災状況確認		利用者の安否確認 バイタルサインの安定化	利用者の安否確認	利用者の安否確認	利用者の安否確認	仕入先の被災状況・在庫確認	
		第1回災害対策本部会議開催 被災状況の確認⇒対応方針の決定（拠点からの退避及び患者搬送の有無、対応可能なサービス等）									
事業継続	●時間	外部からの応援受入れ体制のコーディネート	建物の修理を建設会社に依頼	情報通信・システムの復旧活動（ソフトウェア）	広報	サービス提供の準備	サービス提供の準備	サービス提供の準備	サービス提供の準備	仕入先への発注（通常の発注が困難な場合、代替発注先の確保）	
		重傷者等の搬送手配	機械・設備の修理・調達をメーカーに依頼			利用者・家族への連絡	利用者・家族への連絡	利用者・家族への連絡	利用者・家族への連絡	資金コースの確認	
		従業員の勤務基盤の確保 行政・外部機関との連携 給与の支払い 災害見舞金等の支払			心のケア	暫定的なサービス提供	暫定的なサービス提供	暫定的なサービス提供	暫定的なサービス提供	現金が必要な場合、取引銀行に対する協力依頼 取引先への代金支払い 被害損害額の概算見積もり	

災害時業務	訓練シナリオ上の状況付与の表現例	
	発信源	状況付与
1 (初動)		STEP5. (1) 初動対応フェーズ参照
2 建物設備社会インフラの被災状況確認	施設	建物のいたるところで破損やひび割れが発見された。階段部分の1部も陥没している状態。危険箇所に対してどういう処置をしたらいいか。
3 利用者の安否確認	介護	入所（居）者の1人が、転倒して腰を強打。骨折した模様。
4 利用者の安否確認	医務	人工呼吸器が停電により作動できない。非常用発電機で対応しているが、燃料があと18時間しか持たない。
5 利用者の家族の連絡	介護	入所（居）者の1人が自宅に帰りたいたいと言い出した。道路はあちこちで陥没しており危険な状態だが、対応方法を指示願う（軽度の方が入所（居）する施設の場合）。
6 暫定的なサービス提供	介護	水道の停止により、入浴サービスが停止。洗濯サービスもできなくなった。衛生的な面でも心配が多い。入居者にどのように説明したらよいか。
7 仕入先への発注	給食/調達	通常の仕入先が津波被害に遭い供給できなくなった。代替の仕入れ先を確保する必要がある。
8 行政外部機関との連携	事務局	市から、仮設住宅を建設するまでの間、約50人の避難者を受け入れて欲しいとの要請があった。

第一部 基礎編

第二部 準備編

第三部 実施編

第四部 振り返り編

資料編

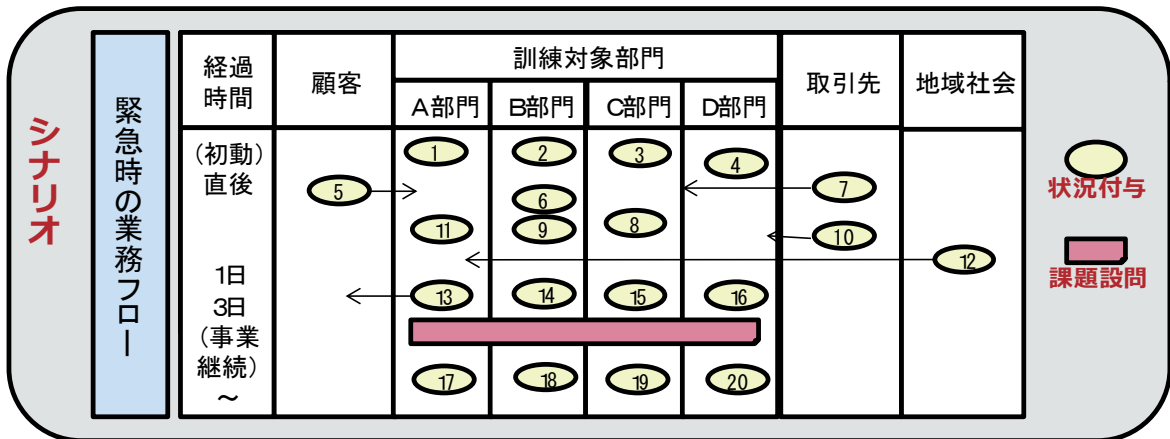
## STEP6. シナリオの作成 (様式3)

「STEP4 被災状況の設定」と「STEP5 災害時業務フローの設定」をしたところで、それらを1つに集約してシナリオを作成します。これは「様式3 シナリオの作成」を使用します。

下の図は中級の場合のシナリオのイメージですが、訓練対象部門に対して、被災状況、対応業務の結果、顧客の要求や取引先の状況など、STEP4、5で設定した状況を時系列に並べて、ストーリーを組み立てていきます。

そしていくつかの状況付与の後、「設問」に対する検討結果を「発表」する、という流れでシナリオを作成します。

初級の場合は、状況付与と同時に設問を出しますが、STEP4、5で設定した状況を時系列に並べて、ストーリーを組み立てていくところは共通です。



### Point! ▶▶ シナリオは、企業の立地や業種の違いを反映したストーリー性をもたせること

シナリオを作成する際の留意事項として、まず大切なことは、シナリオは災害時の対応の流れを再現した「物語」であるということ意識して、各企業の事業環境に応じたリアリティのあるものとする必要があります。津波被害の有無や、業種によるお客様対応の有無、サプライチェーンからの要求事項の有無などをシナリオの中に取り入れることによって、シナリオのストーリー性が出来上がっていきます。



五台山から撮影した昭和南海地震後の高知市街（上）と現在の市街（下）

高知市や宿毛市などにおいては、南海トラフ地震発生後の長期浸水についても考慮する必要があります。

## Point! ▶▶ 目的に応じた適切な「設問」を考え、設問との関連性を意識した「状況」を取り入れる

またシナリオを作成する際には、各グループに何を考えさせるのかをよく考えて「設問」を作り、そのために必要な状況を提供することが必要となります。

初級の訓練の場合は、初動フェーズにおける個々の状況を与え、そのときどうしますか？ というようなシンプルな形式でも十分に訓練のシナリオとなります。

### 【初級の訓練での状況付与と設問の例】

【状況】

- ・強い地震が発生。店内は、揺れにより商品、設備、什器が転倒し散乱している。
- ・電気は停電しており、自動ドアも機能せず。照明は消えているが、太陽光により一定の照度は確保されている。
- ・お客様は、右往左往している人、外に飛び出している人がいるなど混乱している。

【設問】

- ・こういう状況の中で、まず対応すべき事項は何か整理して下さい。

### 【初級の訓練と中級の訓練の違い】

	初級	中級
訓練目的	一般従業員向けの疑似体験、またはBCPの理解度向上	災害対策本部メンバー向けのBCPの検証、または課題解決策の検討
状況付与	被災・復旧状況の付与に加えて、災害時に起こるであろう出来事を想定して作成する。自社の立地や業種を考慮した特徴を盛り込む。あわせて、その状況における対応を考えさせる設問を加える。	被災・復旧状況の付与に加えて、顧客や取引先など利害関係者からの要求事項も付与する。  (状況の中での設問はなし)
課題設問	なし	ある局面でのBCP上の課題を想定した設問を作成する。 災害対策本部会議が開催されるという想定で、重要業務の目標時間内での供給を達成するための今後の対応方針等を報告する。 など
発表	状況付与とセットで出した設問に対するグループ討議の結果を発表させる。 設問数やグループ数が多く時間がかかりすぎる場合は、各グループが答える設問を割り振ることも可能。	与えられた課題に対する検討結果を発表させる。

## [様式3 シナリオの作成] 初級訓練の記入例

初級

NO	付与時間	日時		経過日	状況/設問
1	14:15	9月11日 (水)	AM 10:15	1日目	南海トラフを震源とする大きな地震が発生
2	14:16	9月11日 (水)	AM 10:15	1日目	<b>【館内放送】</b> 大きな地震が発生しました。津波の危険があります。決められた避難場所に急いで避難してください。 <b>【設問】</b> 避難誘導係として、まずやるべきことは何ですか？
3	14:17	9月11日 (水)	AM 11:18	1日目	<b>【ワンセグTV】</b> 四国では、高知、安芸、須崎、四万十、宿毛といった各市で大きな津波が繰り返し押し寄せ、現在も広い地域で水が引かない状況が続いています。
4	14:18	9月11日 (水)	AM 11:20	1日目	代替場所〇〇に、社長以下対策本部メンバーが参集し、対策本部を設置した。通信手段は、衛星携帯電話が一台あるのみ。非常用発電機はあるが、燃料は24時間分しかない。
5	14:20	9月11日 (水)	AM 11:30	1日目	<b>【ワンセグTV】</b> 固定電話・携帯電話は発信規制が実施され、ほとんど繋がりません。NTT等が提供する災害時伝言ダイヤルや災害伝言板等を利用してください。また、NTTは主要な避難所に無料の公衆電話を設置する計画です。 <b>【設問】</b> 情報チームとして、どう対応していきますか？
6	14:22	9月11日 (水)	PM 16:00	1日目	<b>【店舗A】</b> 店内の商品が落下し、また壁も天井も大きく破損しており、とてもお客様を店内に案内できる状況にはない。駐車場のスペースにワゴンを持ちだし、水・食料や生活用品などについて優先的に臨時販売を開始した。 <b>【設問】</b> 店舗支援部門として、この段階で実施すべきことを整理してください。
7	14:24	9月11日 (水)	PM 16:30	1日目	<b>【店舗B】</b> 水や食料、特におにぎりやカップ麺を求めるお客様が多いが、それら商品の在庫が不足。至急届けてほしい。 <b>【設問】</b> 商品部として、この段階で実施すべきことを整理してください。
8	14:26	9月11日 (水)	PM 17:00	1日目	<b>【物流倉庫】</b> 協定の相手方から水・食料等生活必需品が大量に届いたが、どこにどれだけ届けたいかが決まっていない。 <b>【設問】</b> 商品部として、この段階で実施すべきことを整理してください。

第一部  
基礎編第一部  
準備編第二部  
実施編第四部  
振り返り編

資料編

## [様式3 シナリオの作成] 中級訓練の記入例

中級

NO	付与時間	日時		経過日	状況/課題設問
		日	時		
1	14:15	9月11日 (水)	AM 10:15	1日目	南海トラフを震源とする大きな地震が発生
2	14:16	9月11日 (水)	AM 10:15	1日目	【館内放送】大きな地震が発生しました。津波の危険があります。決められた避難場所に急いで避難してください。
3	14:17	9月11日 (水)	AM 11:18	1日目	【ワンセグTV】 四国では、高知、安芸、須崎、四万十、宿毛といった各市で大きな津波が繰り返し押し寄せ、現在も広い地域で水が引かない状況が続いています。
4	14:18	9月11日 (水)	AM 11:20	1日目	代替場所〇〇に、社長以下対策本部メンバーが参集し、対策本部を設置した。通信手段は、衛星携帯電話が一台あるのみ。非常用発電機はあるが、燃料は24時間分しかない。
5	14:20	9月11日 (水)	AM 11:30	1日目	【ワンセグTV】 固定電話・携帯電話は発信規制が実施され、ほとんど繋がりません。NTT等が提供する災害時伝言ダイヤルや災害伝言板等を利用してください。また、NTTは主要な避難所に無料の公衆電話を設置する計画です。
6	14:22	9月11日 (水)	PM 16:00	1日目	【店舗A】店内の商品が落下し、また壁も天井も大きく破損しており、とてもお客様を店内に案内できる状況にはない。駐車場のスペースにワゴンを持ちだし、水・食料や生活用品などについて優先的に臨時販売を開始した。
7	14:24	9月11日 (水)	PM 16:30	1日目	【店舗B】水や食料、特におにぎりやカップ麺を求めるお客様が多いが、それら商品の在庫が不足。至急届けてほしい。
8	14:26	9月11日 (水)	PM 17:00	1日目	【物流倉庫】協定の相手方から水・食料等生活必需品が大量に届いたが、どこにどれだけ届けたらいいかが決まっていない。
~	~	~	~	~	(省略)
	14:30	課題設問①			第一回災害対策本部会議が開催されることとなった。各部門、現在の被災状況と今後の対応策について報告せよ。

第一部  
基礎編第二部  
準備編第三部  
実施編第四部  
振り返り編

資料編